

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年9月30日(金) 5校時
児 童 男15名 女13名 計28名
授業者 小國 千絵子

1 単元名 登場人物の生き方や考え方に着目して読み、感動の中心をとらえてキャッチコピーにまとめよう

教材名 「海のいのち」(東京書籍 6年)

2 単元の目標

○登場人物の生き方や考え方に関心を持って、読んだり、話し合ったりしようとする。

[関心・意欲・態度]

○登場人物についての叙述から、その心情の変化を読み取り、物語が自分に最も語りかけてきたことを考えながら読むことができる。

[読むこと エ]

○物語が最も強く語りかけてきたことについて考えたことを友達と交流し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

[読むこと オ]

○大事な言葉や表現の工夫などに気付き、登場人物の心情の変化を読みとる手がかりにしている。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ケ)]

3 単元の評価基準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○登場人物の生き方や考え方に関心を持ち、読んだり、話し合ったりしようとしている。	◎登場人物についての叙述から、その心情の変化を読み取り、物語が最も自分に語りかけてきたことを考えながら読んでいる。(エ) ○物語が最も強く語りかけてきたことについて考えたことを友達と交流し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	○大事な言葉や表現の工夫などに気付き、登場人物の心情の変化を読み取る手がかりにしている。イ(ケ)

4 言語活動とその特徴

本単元では、「C読むこと」の「エ登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」を重点指導事項とする。そのために、「登場人物の生き方や考え方に着目して読み、心情の変化を読み取って本の帯にまとめる」という言語活動を設定する。

具体的には、まず、本単元で帯を作成するにあたって、「思わず立ち止まり、本を手に取りたくなるようなキャッチコピーを作ろう」と呼びかけ、本の帯を作るという目的意識を持たせる。そして、帯を作成するときは、表面に物語が最も強く語りかけてきたことについて考えたことを短い言葉でキャッチコピーにまとめ、裏面にあらすじや物語の説明、背表紙に作者名を書く。また、キャッチコピーは、①主題に関わること ②中心人物の変化 ③変化のきっかけ ④クライマックスの一文という観点などに触れながら、自分がおすすめる一文を書く。また、そのキャッチコピーを作った根拠についてもノートに書かせる。活動を行うためには、それまでに学習してきた「中心となる人物の変化」や「人物と人物の関係」を考えながら読むことを生かし、物語の内容を十分に理解したうえで、自分の感動の中心を考えることが必要となる。登場人物相互の関係からどのように主人公の心情が変化していくのか、自分の考えと比べながら読むことでとらえさせたい。これらの言語活動を通して、「登場人物の心情の変化をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力」を身につけさせたいと考える。

5 単元について

(1) 児童について

児童は、5年生までに物語の構成や表現の工夫を見つけて、作品のよさを解説する学習を行ってきた。6年生になり、「風切るつばさ」で登場人物の心情の変化とともに人物相互の関係が変化していく様子を人物関係図にまとめる学習をした。それによって、物語の叙述をもとに、人物と人物の関係を読み取り、さらに中心となる人物の心情の変化を読み取る力をつけてきた。しかし、読みに対して受け身の児童が多く、書いていること以上の読みにはなかなかつながっていかない。

これまで、様々な教科で考えを伝えたり、確認したりするためにペア活動を行ってきたが、少人数ではできてもそれを全体の場で発言するということに抵抗を感じる児童が多い。また、相手の話を最後まで「聴く」ということができていない児童が多いため、学び合いの場面で考えを深めるといふことまではなかなかできていない。

そこで、本単元では、導入でキャッチコピーを作成するときの観点を提示することで、自分ほどの観点で作成するか考えながら読ませることができ、受け身ではなく、主体的に読みに関われるようにしていきたい。また、読みに対する自分の考えを交流する場を設けるが、その時に自分の考えをあらかじめ書いておき、友達の考えと比べながら聴いて読みを深められるようにし、確かな読みの力をつけていきたい。

(2) 教材について

本教材は、中心となる人物・太一が、父や与吉じいさなどの周りの人物との関わりを通して成長していく物語である。人物相互の関係を手がかりに山場での太一の心情の変化についてその理由とともに考えさせたい。また、題名である「海のいのち」は作品の主題に関わる言葉であり、読み手が多様な視点で作品に入り込むことができる。

よって、子どもたち一人一人の読みを大切にしながら、人物の生き方を考えて読むことができる教材である。

(3) 指導にあたって

第一次では、物語が最も強く語りかけてきたことを短い言葉でまとめてキャッチコピーを作り、それをもとに本の帯を作る活動をするを伝える。その際、1学期に学習した「風切るつばさ」の本の帯を教師が作って表現モデルとして提示し、その分析を通して、本の帯がどのような構成になっているのかをつかませる。また、実際に「海のいのち」を題材として、子どもたち自身が本の帯を作成してみる。その時に、どのような観点で本の帯を作っていたらよいかも確認する。また、「いのちシリーズ」の本を並行読書させ、作者の「いのち」についての様々な考えに触れさせることで、「海のいのち」の本の帯を作るときの考えを深めさせたい。

第二次では、物語の山場で起こる変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことについて考える。その時に自分がどうしてその場面に引きつけられたのか、理由とともに書かせて、交流するときの手がかりとさせたい。

第三次では、二次で読み取ったことをもとに、再び「海のいのち」を題材として本の帯を作る活動を行う。一次で作ったものとまずは自分で比べさせ、読みの深まりを感じさせたい。その後、友達が作成した本の帯を見せ合って交流する活動を行い、友達の本の帯と比べながら交流することで様々な読みがあるのだということに気付くことができるようにさせたい。

6 指導計画 (全9時間)

段階	時間	主な学習活動	評価規準
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しを持つ。 ・単元のゴールを提示する。 	【関】 本の帯に興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (行動観察・発言・ノート)
		登場人物の生き方や考え方に着目して読み、感動の中心を本の帯にまとめよう。	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を一読し、本の帯を書いてみる。 ・新出漢字を練習する。 	【関】 興味を持って教材文を読み、本の帯の作成に取り組んでいる。(発言・本の帯)
第2次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の設定(登場人物、場所、時、出来事など)を大まかにつかむ。 	【読】 物語の全体をとらえ、大まかな設定を読み取っている。(発言・ノート)
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を大きく4つに分け、物語の全体をつかむ。 ・物語の構成を理解し、太一的心情が最も大きく変化した場面(山場)をとらえる。 	【読】 物語の構成をとらえて、太一的心情の変化を読み取っている。 (発言・ノート・振り返り)
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の中で、自分が一番引きつけられた場面はどこか考え、その理由を交流する。 	【読】 読み手が引きつけられる部分について、太一的心情の変化とその理由をもとに考えながら読んでいる。 (発言・ノート・振り返り)
	6 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬の主に対する太一的心情の変化を読む。 	【読】 読み手が引きつけられる部分について、太一的心情の変化とその理由をもとに考えながら読んでいる。 (発言・ノート・振り返り)

	7	・人物相互の関係や文章表現の工夫を手がかりに、その後の太一の生き方をとらえ、物語が強く語りかけてきたことを考える。	【読】 その後の太一の生き方をとらえ、物語全体を通して物語が強く語りかけてきたことをまとめている。 (発言・ノート・振り返り)
第3次	8	・作品の読みをもとに、もう一度帯を作る。 ・第一次で自分が作った本の帯と比べる。	【読】 読み取ったことをもとに、帯を書くときの観点に沿って書いている。 (本の帯・振り返り)
	9	・作成した帯を見せ合い、学習のまとめをする。	【読】 自分の本の帯と比べながら友達と見せ合い、自分の考えを広めたり深めたりしている。 (発言・振り返り)

7 本時の指導 (6 / 9)

(1) 目標

人物相互の関係から太一の心情の変化とその理由を読むことができる。

手立て①「ねらいを明確にした交流の位置づけ」

【ねらい】 →友達の考えと自分の考えを比較しながら聞き、考えを深める。

【方向性】 →友達の考えを聴き、それについての意見を述べ合うことで、考えを明らかにする。

【子どもの状態】 →自分で考えたが、まだ自信が持てない状態。

【形態】 →ペア学習の後に全体で交流する。

(ペア学習では、互いに考えを確認し、伝え合う機会を確保するとともに、その後の全体での練り合いに向けて自信を付けさせたい。そして全体の場で、それぞれの考えを発表し合い、聴き合うことで考えを深められるようにしたい。)

手立て②「子どもが交流のよさを実感することができるような振り返りの位置づけ」

「太一の心情の変化とその理由に対する自分の考えと友達の多様な考えとを比較すること」について、次の視点で振り返らせる。

○交流することで、自分の考えは怎么样了か。

(2) 展開

段階	主な学習活動	予想される子どもの考え	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習課題を確認する		<ul style="list-style-type: none"> ・本の帯を書くという課題に向けて読み進めていることを確認する。 ・太一の心情の変化に着目して読んでいたことを振り返る。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 太一は、なぜ瀬の主を殺さなかったのだろう。 </div>	

<p>展開 25分</p>	<p>2 山場の場면을音読する ・一文読み</p> <p>3 瀬の主についての記述から、太一の瀬の主に対する心情の変化を読み取る</p> <p>4 太一は、なぜ瀬の主を殺さなかったのか自分の考えをまとめる</p> <p>5 考えを交流する ・なぜ瀬の主を殺せなかったのか</p>	<p>【瀬の主の叙述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢 ・自分の追い求めてきたまぼろしの魚 ・父を破った瀬の主 ・おとう <ul style="list-style-type: none"> ・クエが海の命に思えたから。 ・クエがおとうだと思ったから。 ・全ての命が海につながっていると思ったから。 ・命のつながりが分かる、村一番の漁師になっていたから。 ・与吉じいさの「千匹に一匹でいい」という考えを引き継いでいるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬の主についての叙述を見つけながら音読する。 ・「夢」「自分の追い求めてきた幻の魚」「父を破った瀬の主」という叙述と「おとう」の違いから心情の変化を読み取らせる。 ・それまでの太一の瀬の主に対する思いをふり返らせた上で、考えさせる。 ・「一人前の漁師」と「村一番の漁師」とはそれぞれどんな漁師か考えさせる。 ・これまで出てきた「海のいのち」「海で生きる」「海に帰る」といった表現に着目させる。
<p>終末 10分</p>	<p>6 本時のまとめをする</p> <p>7 本時のふり返りをし、次時の学習を確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・父も与吉じいさと同じように海に還っている。だから、海の象徴である瀬の主を殺してはいけない。 ・全ての命がつながっている。クエを殺すことはそのつながりを壊すことになるから殺さなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとに、学習課題に対する自分の考えをそれぞれまとめる。 ・振り返りカードに記入させる。 ・友達の考えの良さに気付かせるようにする。

(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準	おおむね満足できる状況	支援を必要とする児童への手立て
人物相互の関係や表現の工夫を手掛かりとして、太一の心情の変化とその理由を考えながら読んでいるか。	太一の心情の変化とその理由について、教材文から読み取ることができる。	太一の瀬の主を殺すという夢と漁師としての生き方を示し、反する気持ちであるために葛藤が生じていることを読ませる。	

(4) 板書計画

